

October 9, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通商協議への警戒感から 106.81 円まで弱含み

8日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は107.09円と前営業日NY終値(107.26円)と比べて17銭程度のドル安水準。米中閣僚級貿易協議の進展期待が後退し、日米株価指数先物の下落や米長期金利の低下とともに円買い・ドル売りが優勢となり、106.81円まで値を下げた。パウエルFRB議長の発言を受けて、金融緩和期待から米国株が急速に下げ渋るとドル円にも買い戻しが入り107.30円付近まで値を上げた。米政権が中国新疆ウイグル自治区で続くイスラム教徒の少数民族ウイグル族などへの弾圧を巡り、関与した中国政府当局者や共産党関係者へのビザ発給を制限すると発表すると、米中対立への懸念が再燃し106.95円付近まで急落した。パウエルFRB議長は短期金利の乱高下を防ぐため「FRBの保有資産拡大が必要」と表明。具体策については「近日公表する」とした。ただ、「量的緩和(QE)と混同するべきではない。これは技術的な問題」と述べ、QE再開との見方は否定した。金融政策については「適切に行動する」と強調した。

ユーロドルは続落。終値は1.0957ドルと前営業日NY終値(1.0971ドル)と比べて0.0014ドル程度のユーロ安水準。欧州市場では1.0996ドルと日通し高値を付けた後、ポンドドルの下落につれたユーロ売り・ドル買いで1.0941ドルと日通し安値を更新した。ポンドドルは軟調だった。英国のEU離脱の再交渉が事実上決裂したことで、10月末の合意なき離脱への警戒感が再燃しポンド売りが加速し、1.2195ドルと9月4日以来の安値を付けた。ユーロ円は3営業日ぶりに反落。終値は117.33円と前営業日NY終値(117.66円)と比べて33銭程度のユーロ安水準。米国株や日経平均先物の下落を背景にリスク回避の円買い・ユーロ売りが優勢となり117.13円と日通し安値を付けた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米中通商協議やFRB保有資産拡大警戒で上値が重い展開か

本日の東京市場のドル円は、明日からの第13回米中通商協議や米連邦準備理事会(FRB)による保有資産拡大への警戒感から上値が重い展開が予想される。

トランプ米大統領は、「中国との貿易協定の合意の可能性ある」と述べつつ、部分的な貿易合意は望まない、香港に関して人道的な解決策を求めると牽制していることで、予断を許さない状況が続いている。

中国側も、今回の通商協議での合意に向けた進展は困難とのことで、11日中に代表団が帰国する模様と報じられている。

米中通商協議に関するポジティブな報道は以下の通り。

- ・クドロー米国家経済会議(NEC)委員長発言「米中通商協議は進展する可能性」
- ・中国側が工程表を準備する用意
- ・中国側が米国産農産物の輸入再開
- ・トランプ米大統領発言「中国との貿易協定の合意の可能性ある」

ネガティブな報道は以下の通り。

- ・ナバロ米大統領補佐官(通商担当)発言「中国と重要な合意を得るか、合意なしかどうか」
- ・トランプ米大統領は「部分合意」「悪い合意」は望まない
- ・香港問題に関して、米上下両院外交委員会が「香港人権・民主主義法案」を可決、トランプ大統領が人道的な解決策を要望
- ・中国側は米国との通商合意に向けて協議の範囲を狭める模様
- ・中国の代表団が合意の可能性が低いとして11日中に帰国予定、との報道
- ・米政府が中国企業8社+28社を禁輸リスト「エンティティ・リスト」に追加
- ・米国が中国政府当局者や共産党関係者へのビザ発給を制限

パウエルFRB議長は、9月18日に「バランスシートの自律的な拡大をいつ再開させるのが適切か点検する方針」と述べていたが、昨日は、「中長期的に準備供給を拡大する措置を近く発表する。準備供給拡大は技術的な問題であり量的緩和(QE)を混同しないように」と述べた。ニューヨーク連銀は、9月17日から、米短期資金調達市場のレポ市場で、連邦政府による税金の収納と国債発行に伴う資金決済が重なったため、レポ金利が10%程度に急騰したことで、資金供給で対応してきた。量的金融緩和第3弾(QE3)では、月間850億ドルの資金供給だったが、3週間で2倍強の1760億ドルの資金供給となり、量的金融緩和第4弾(QE4)を睨んだ「ステルスQE」ではないか、と警戒されている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 08:30 ◇ 10 月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
- 20:00 ◎ 9 月メキシコ消費者物価指数 (CPI、予想：前月比 0.26%)
- 21:00 ◎ 9 月ブラジル IBGE 消費者物価指数 (IPCA、予想：前月比 0.03%)
- 23:00 ◇ 8 月米卸売上高 (予想：前月比 0.2%)
- 23:00 ◇ 8 月米卸売在庫 (予想：前月比 0.4%)
- 23:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 23:30 ☆ パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長、講演
- 10 日 02:00 ◎ 米財務省、10 年債入札
- 10 日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (9 月 17 日-18 日分)
- ユーロ圏財務相会合 (ルクセンブルク)
- 韓国 (ハンゲルの日)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

8日 05:12 トランプ米大統領

「中国との貿易協定の合意の可能性ある」
「中国は米国に取引をするためにやってくる」
「香港に関して人道的な解決策を求める」
「中国との部分的な貿易合意は私たちが望むものではない」

8日 11:05 安倍首相

(マイナス金利深堀りなどの可能性で)
「黒田日銀総裁は政策のベネフィットとコストを比較考慮し適切に判断」

8日 17:00 中国外務省

「(トランプ米大統領のバイデン前副大統領への調査の要求について)米国国内の問題に介入するつもりはない」

8日 18:22 英政府筋

「(ブレグジットについて)欧州連合(EU)が真剣に関与して、交渉しているとは思えない」

8日 18:30 マルムストローム欧州委員(通商担当)

「米国の関税を避けることに楽観的になれない」

8日 18:31 ジョンソン英首相報道官

「英首相はメルケル独首相に対して、EU 離脱合意は本質的に不可能だと述べた」
「ブレグジットが合意できるように突っ込んだ話をする用意がある」
「非難合戦をしているのは英国ではない」
「話し合いはまさに重要な局面だ」
「今のところは EU からの妥協はみえない」

8日 18:53 英労働党

「ジョンソン首相の戦略は初日から合意なき離脱だ」
「政府が月末に EU から脱獄することを避けるため、議会は今こそ一体化することが今まで以上に一番重要だ」
「官邸からの発言は、またしても交渉をサボタージュする馬鹿げた行いだ」

8日 19:26 フォスター民主統一党(DUP)党首

「メルケル独首相の発言は、欧州連合(EU)とダブリンが北アイルランドを餌にはめることを表している」

8日 19:49 トゥスク EU 大統領

「交渉をまとめたくもなく、交渉延長もしたくもなく、離脱撤回もしたくもなく、どこに行くつもりだ？」

9日 02:57 欧州議会のサツォーリ議長

「ジョンソン英首相とロンドンで会談」
「ブレグジット協議は進展せず」

9日 02:59 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「上向きよりも下向きのリスクが強まっている」
「低調な ISM 製造業景気指数は良くないサイン」

9日 03:12 ナバロ米大統領補佐官(通商担当)

「トランプ米大統領は中国との大型合意を望んでいる」

9日 03:33 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

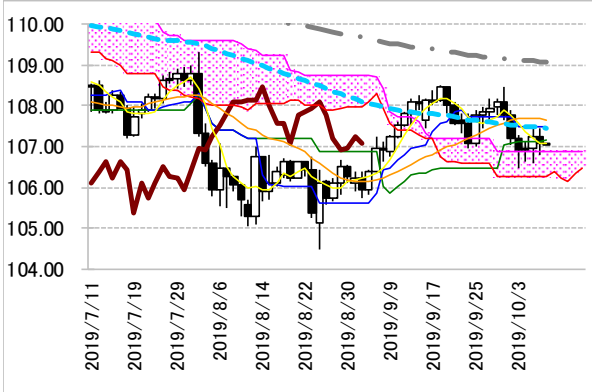
「FRB は適切に行動する」
「中長期的に準備供給を拡大する措置を近く発表する」
「政策は事前に決められたコースではなく適宜変更される」
「会合ごとに見通しとリスクを評価する」
「準備供給拡大と量的緩和(QE)を混同しないように。これは技術的な問題」

9日 06:16 米ホワイトハウス

「トランプ米大統領は弾劾調査に参加しないだろう」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

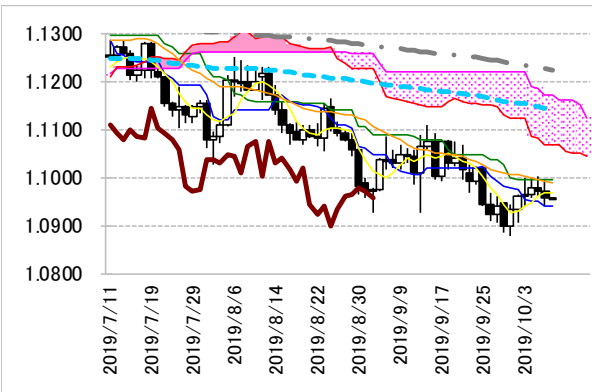


<ドル円=雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。トリプル・トップ（108.48円・108.47円・108.47円）で反落したものの、雲が支持帯となり下げ渋る展開となっている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回れば手仕舞い。

レジスタンス1	107.48(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	107.09
サポート1	106.89(日足一目均衡表・雲の上限)
サポート2	106.25(日足一目均衡表・雲の下限)

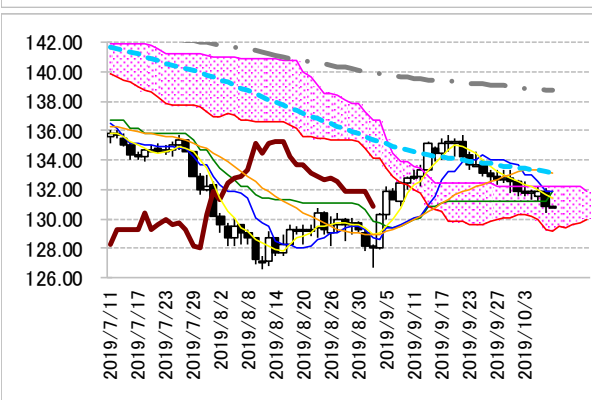


<ユーロドル=10/7 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回って引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。4手連続陽線で反発していたものの、孕み線、2手連続陰線で反落しており、下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、10月7日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1001(10/7 高値)
前日終値	1.0957
サポート1	1.0879(10/1 安値)

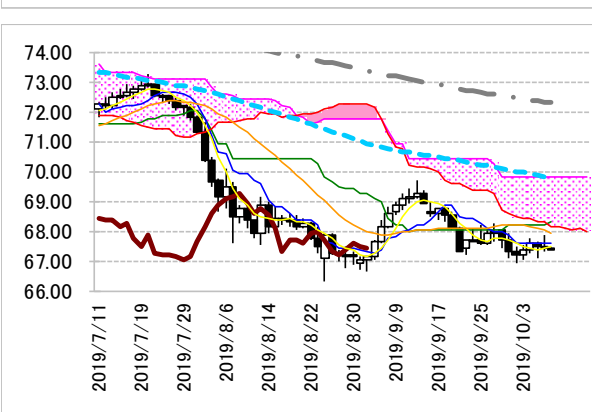


<ポンド円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で引けている（中立）ことで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、抱き線で転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	131.85(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	130.85
サポート1	129.20(日足一目均衡表・雲の下限)



<NZドル円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陰線引け。遅行スパンは実線を上回っているものの、一目・転換線は一目・基準線を下回り、雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	68.31(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	67.44
サポート1	66.94(10/2 安値)

